

新たな野球場に関する説明会

(豊橋総合スポーツ公園 B地区における野球場について)

令和7年9月5日

令和7年9月7日

豊 橋 市

目 次

1. 説明会の目的
2. 新たな野球場計画の背景
3. 市内野球場の課題
4. 新たな野球場の方針
5. 計画場所
6. 完成予想図
7. 計画平面図
8. 計画横断図
9. 計画場所の概要
10. 計画の方針
11. 計画の概要
12. 概算事業費

1. 説明会の目的

豊橋総合スポーツ公園 B地区の野球場は、昨年8月に基本計画を公表し、その後野球関係団体などのご意見を伺い、同年10月末に基本設計を取りまとめました。

野球場の整備は、この基本設計をベースに進めていきます。

説明会は、市民の皆様に、施設の概要に加えて津波や液状化などの地震対策についてもご説明し、競技環境やアクセスだけでなく防災面など様々な面からご意見を伺い、より安全で利用しやすい施設とするために開催するものです。

2. 新たな野球場計画の背景

- 多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業の継続の賛否を問う住民投票が行われ、その結果、事業が継続となり豊橋球場がなくなることが確定しました。
- 野球場の競技環境の整備は、長年にわたる課題で、野球関係者からは同一場所で複数面整備の要望も出されてきました。

3. 市内野球場の課題

○球場外へのボールの飛び出しがある。

(東田球場、高師緑地青少年広場など)

<近隣住民や公園利用者も不安を感じている>

○硬式野球の練習・試合場所が不足している。

<中学生以上が試合形式で利用できる公営施設は、岩田運動公園と
県営神野野球場の2か所のみ>

○利用の過密化が生じている。

<特に土日・祝日は予約で埋まってしまい、試合や練習ができる場
が不足>

4. 新たな野球場の方針

○豊橋総合スポーツ公園B地区は、硬式に対応した野球場を早期に整備することが可能なエリアであり、市内の野球場機能の集約化（東田球場と高師緑地青少年広場の野球場機能を段階的に廃止）も合わせて実施できると判断したため、B地区に新たにメイン球場とサブグラウンド2面の計3面を整備します。

5. 計画場所（豊橋総合スポーツ公園）

○豊橋総合スポーツ公園 B 地区内（計画場所は左図 ）



A地区の主な施設：豊橋市総合体育館、アクリーナ豊橋など
B地区の主な施設：多目的広場など
C地区の主な施設：サッカー場など



図1 位置図

出典：国土地理院

6. 完成予想図



图2 完成予想图①

6. 完成予想図



図3 完成予想図②

7. 計画平面図

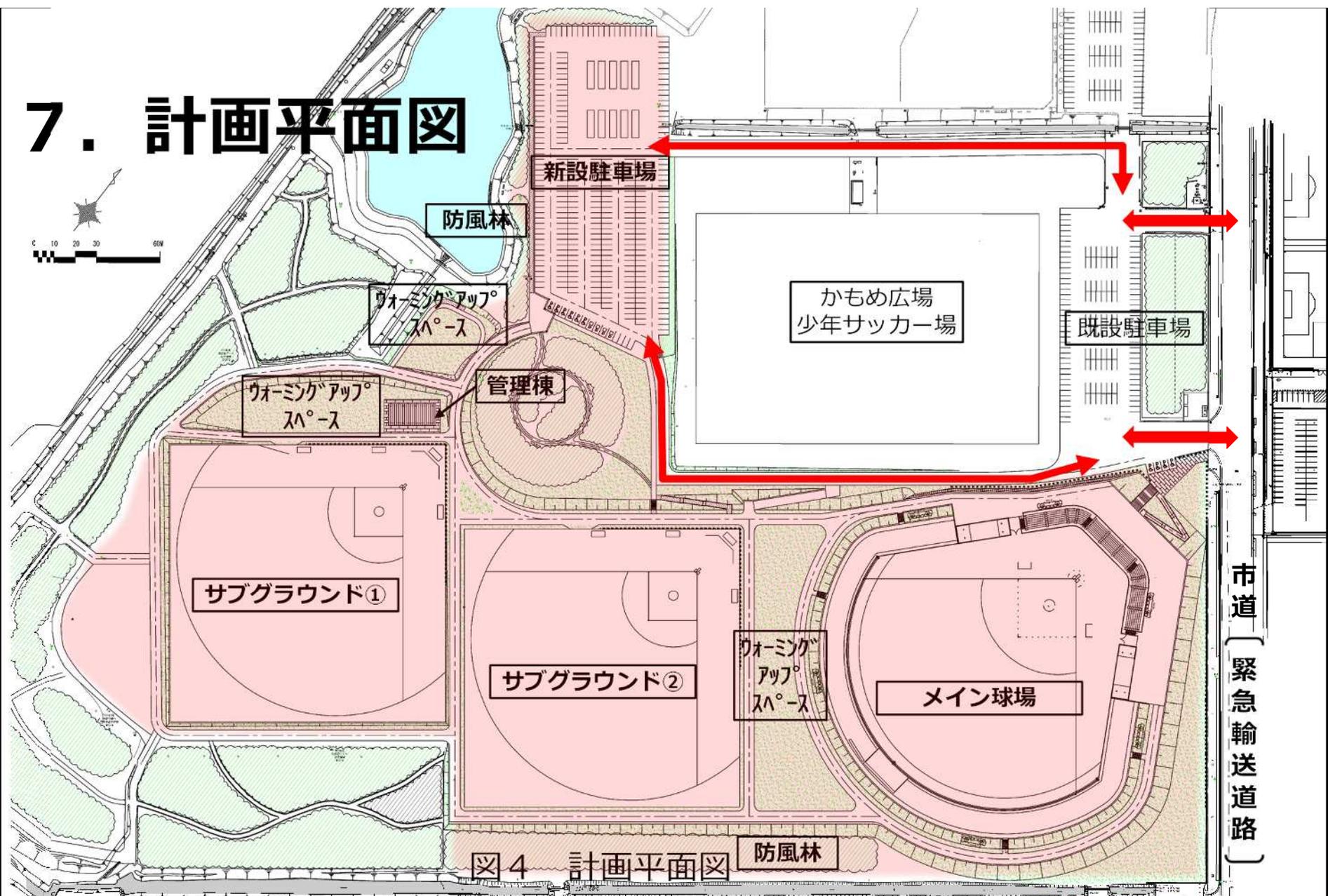
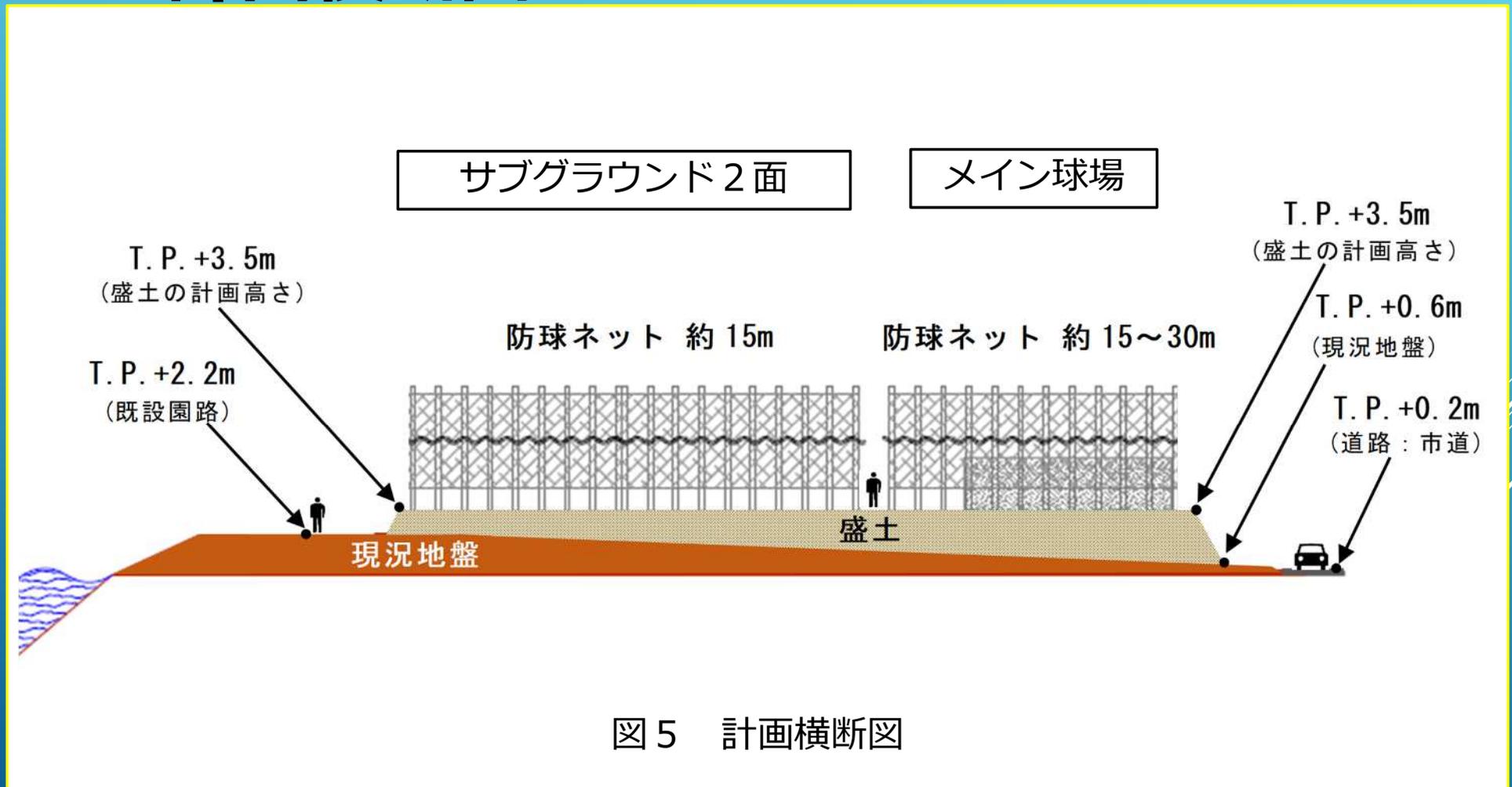


図4 計画平面図

8. 計画横断面図



9. 計画場所（豊橋総合スポーツ公園）の概要

○平成6年9月に運動公園として都市計画決定（※1）された

【※1 計画的なまちづくりを行うために、土地利用や公園などの整備等について都市計画法により定めること】

○災害時の避難や応急活動のための緊急輸送道路（※2）に接する

【※2 災害直後から避難・救助をはじめ物資供給等の応急活動のために緊急車両の通行を確保すべき重要な路線】

○災害時の広域防災活動拠点（※3）（県指定）

【※3 災害発生時に県南東部地域の受援と応援および豊橋市の広域応援の受援及び応援のための集結・集積活動拠点】

○数百年から千年に1回の確率で発生する可能性がある強い地震動においては、液状化危険度が極めて高い地域（※4）

【※4 地質調査結果に基づく液状化判定の結果】

9. 計画場所（豊橋総合スポーツ公園）の概要

- 愛知県が指定した津波災害警戒区域内（※1）

【※1 最大クラスの津波が発生した場合に、生命又は身体に危害が生ずる恐れがある区域で、当該区域における津波による人的災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域】

- 本市が設定する特定避難困難地域内（※2）

【※2 津波の到達時間までに、避難行動対象地域外または津波避難ビルや津波避難場所に避難することが困難な地域】

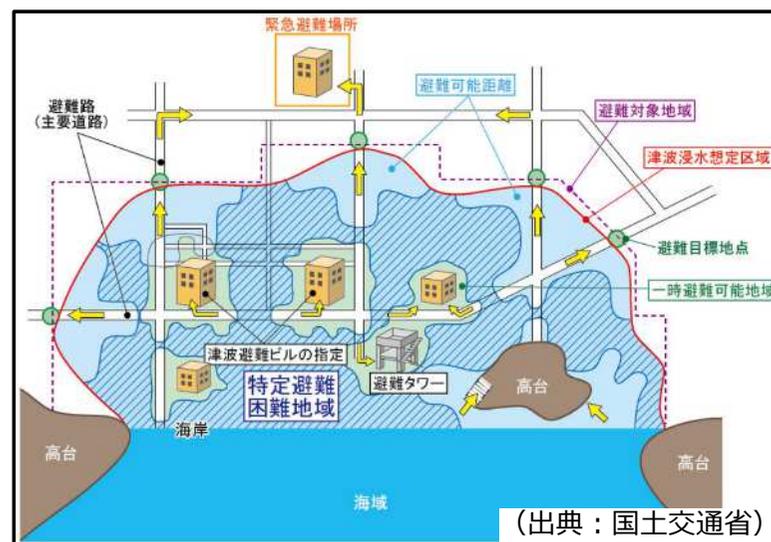


図6 特定避難困難地域イメージ図

10. 計画の方針

- メイン球場とサブグラウンド2面の計3面が隣接し、硬式・軟式野球・ソフトボールの大会や日常の練習など使いやすい野球場とします。
- 津波が発生した際に周辺施設の利用者や周辺地域の住民が一時的な避難に利用できる施設とします。

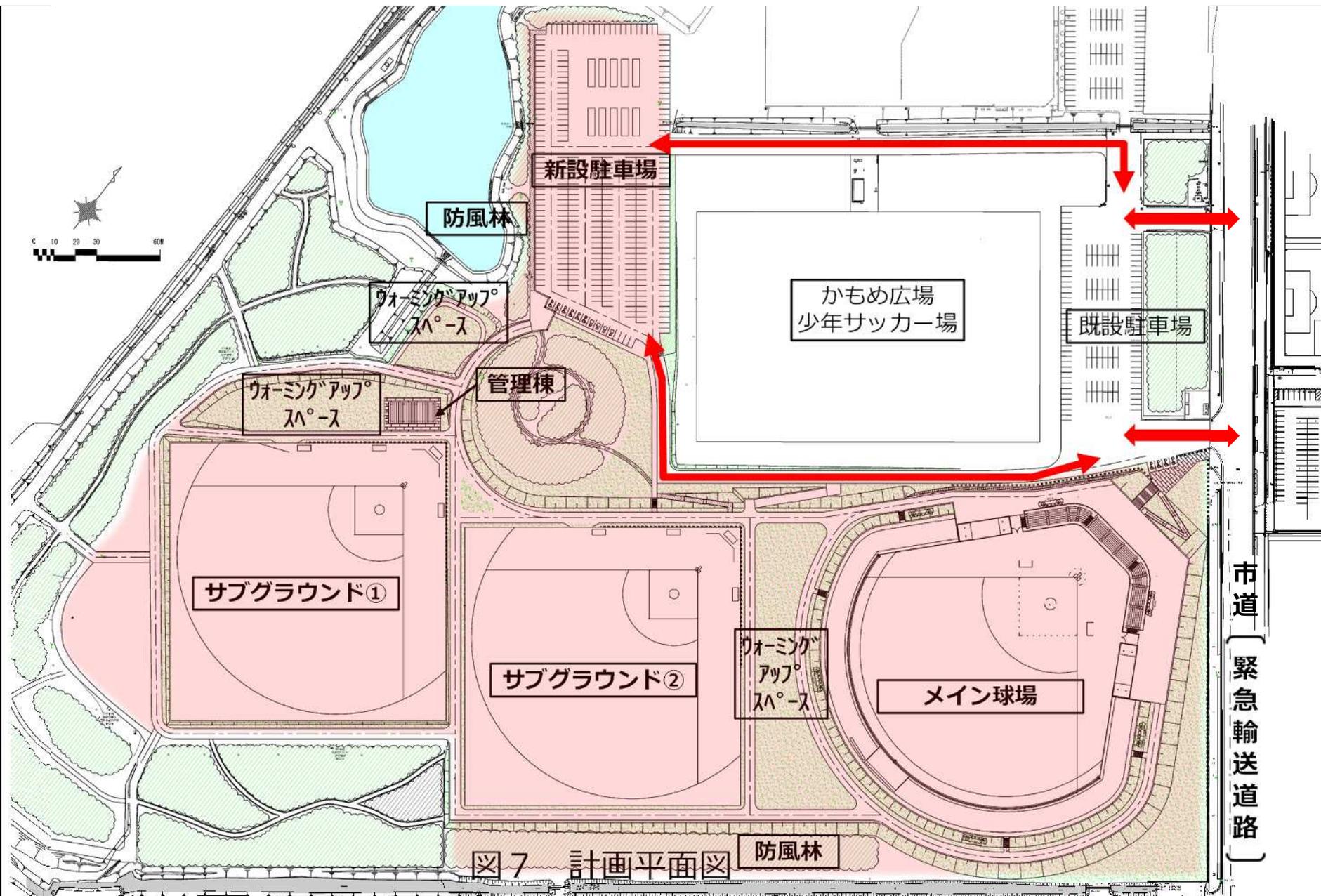


図7 計画平面図

1.1. 計画の概要

(1) 平面計画

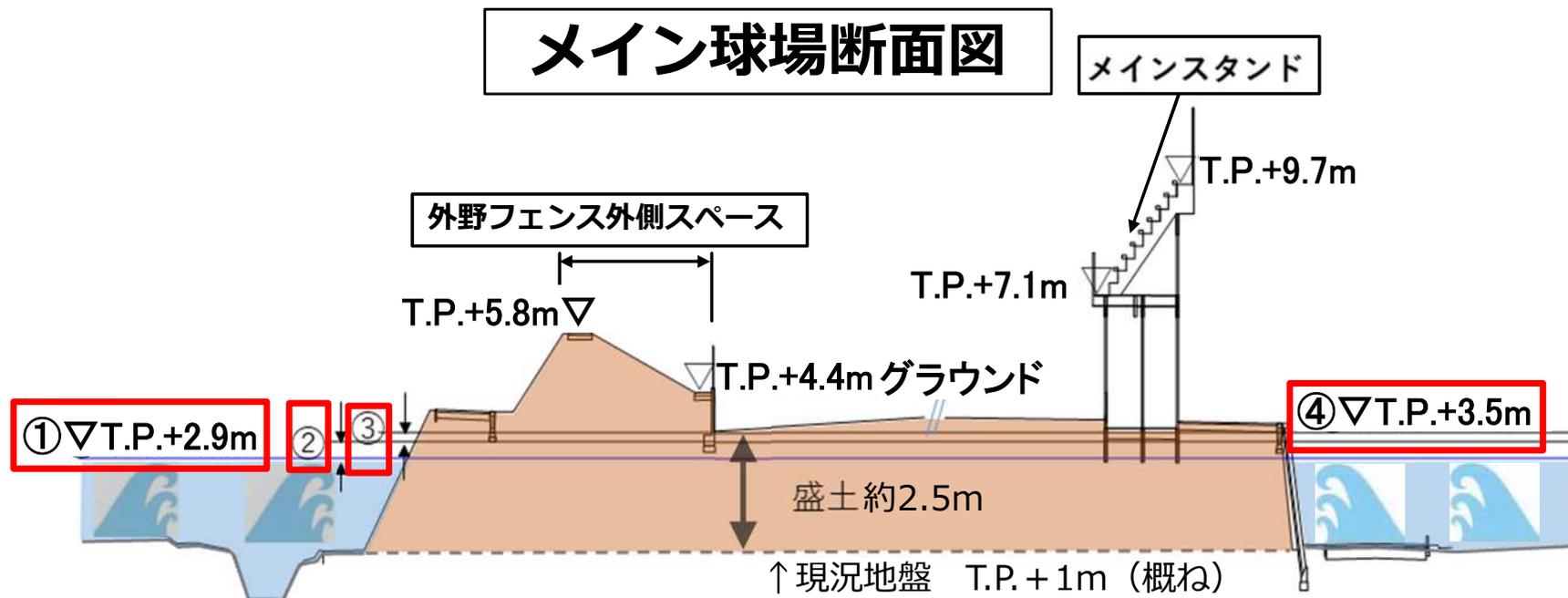
- メイン球場を海から離れた道路側に配置
 - ⇒避難場所として周辺施設や地域からのわかりやすい配置
- メイン球場西側にサブグラウンドを2面並べて配置
 - ⇒3面が横並びで試合や練習で利用しやすい配置
- メイン球場とサブグラウンド`周辺にウォーミングアップ`エリアを配置
- 駐車場はメイン球場とサブグラウンド`へのアクセス性を考慮し配置
- メイン球場とサブグラウンド`外周に車両が通行可能な園路を計画
- 風対策として防風林を計画

1.1. 計画の概要

(2) 施設計画

表1 野球場の規模及び施設

整備場所	項目	施設
メイン球場・サブグラウンド共通	規模	両翼 100m×中堅 122m (公認野球規則：97.534m 以上×121.918m 以上)
	球場施設	バックネット・ベンチ(ダッグアウト)・ファウルポール・器具庫(ベース等備品類を含む)
メイン球場	メインスタンド	本部・役員室・審判員室・記者室・放送室・救護室・トイレ(浄化槽)・更衣室・倉庫・内野スタンド約 1,300 席(車いす席を含む)
	球場施設	防球ネット H=約 15m~30m・ナイター照明(LED)・バックスクリーン・スコアボード(本体、架台込み)・旗掲揚塔・ブルペン(投球練習場)
サブグラウンド (1面当たり)	球場施設	本部席・防球ネット H=約 15m・ブルペン(投球練習場)
その他	球場外施設	管理棟(トイレ(浄化槽)・男女更衣室・事務室・倉庫)
	駐車場	自家用車駐車場約 300 台、大型バス駐車場約 10 台



【盛土の計画高さ（上図④）の設定根拠】

- ① T.P.+2.9m：南海トラフの巨大地震の最大クラス（理論上最大）の津波高
- ② 0.39m：気候変動による西暦2100年の海面上昇量（愛知県による推計値）
- ③ 0.19m：計画地内の液状化による地盤沈下の最大量（地質調査からの計算値）
- ④ T.P.+3.5m：盛土の計画高さ（①2.9m+②0.39m+③0.19m=3.48m≒3.5m）

図8 計画横断面図

1 1. 計画の概要

(3) 横断計画

- 盛土の計画高さ (T.P.+3.5m) は、
- ①津波の基準水位以上の高さ、
 - ②気候変動による将来の海面上昇量、
 - ③地震による液状化の沈下量
- を考慮し設定 (下記①～③により設定)

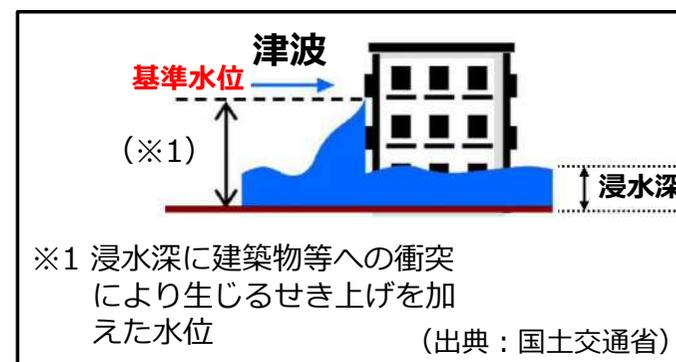


図9 津波イメージ図

- ① T.P.+2.9m : 南海トラフの巨大地震の最大クラス (理論上最大) の津波高
- ② 0.39m : 気候変動による西暦2100年の海面上昇量 (愛知県による推計値)
- ③ 0.19m : 計画地内の液状化による地盤沈下の最大量 (地質調査からの計算値)

1 1. 計画の概要

(4) 地震対策 (1 / 3)

- 野球場 3 面の計画高は、津波の基準水位以上の高さとして、将来の気候変動による海面上昇量と、地震の液状化による沈下量を考慮した高さ
- 法面は地震時の揺れや、津波の流れにより侵食され洗堀の可能性があるため、実施設計にて安定解析を行い必要な対策を設計

1 1 . 計画の概要

(4) 地震対策 (2 / 3)

○メイン球場のメインスタンドとその周辺(右下図 ■) は、液状化の発生を防止する対策としてサンドコンパクションパイル工法などを採用
工法の詳細は、実施設計にて設計

①液状化の発生を防止する対策
(サンドコンパクションパイル工法等)

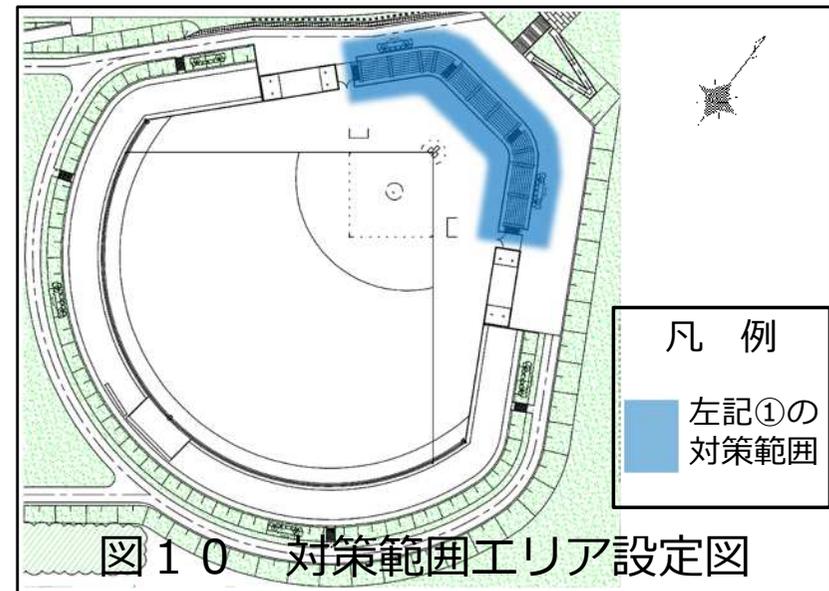


図 1 0 対策範囲エリア設定図

1 1 . 計画の概要

(4) 地震対策 (3 / 3)

○メイン球場の外野フェンス外側スペース(右下図 ■) は土構造であるため、実施設計にて盛土の安定解析を行い、①・②

から最適な対策を選定し設計

①液状化の発生を防止する対策

(サンドコンパクション工法等)

②液状化の発生は許すが施設の

被害を軽減する対策

(補強材の敷設工法等)

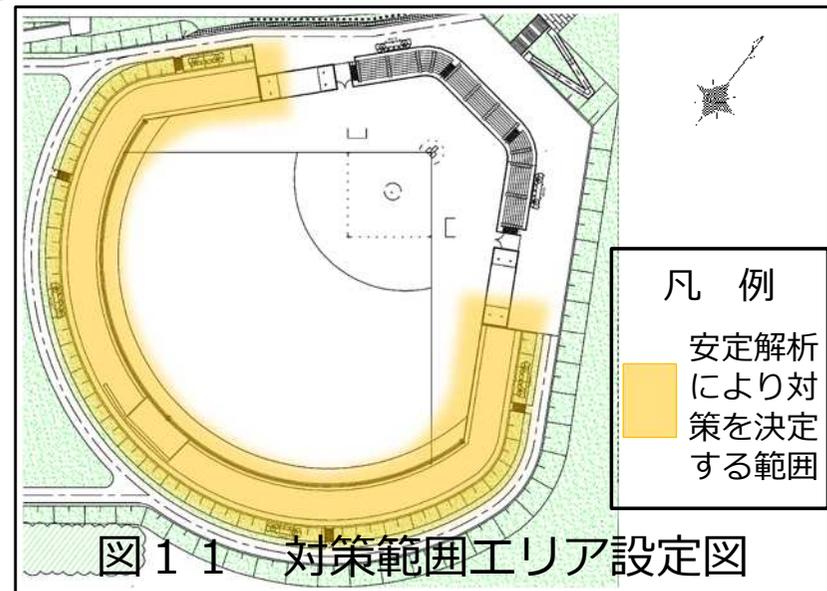


図 1 1 対策範囲エリア設定図

1 1 . 計画の概要

(5) 津波の指定緊急避難場所

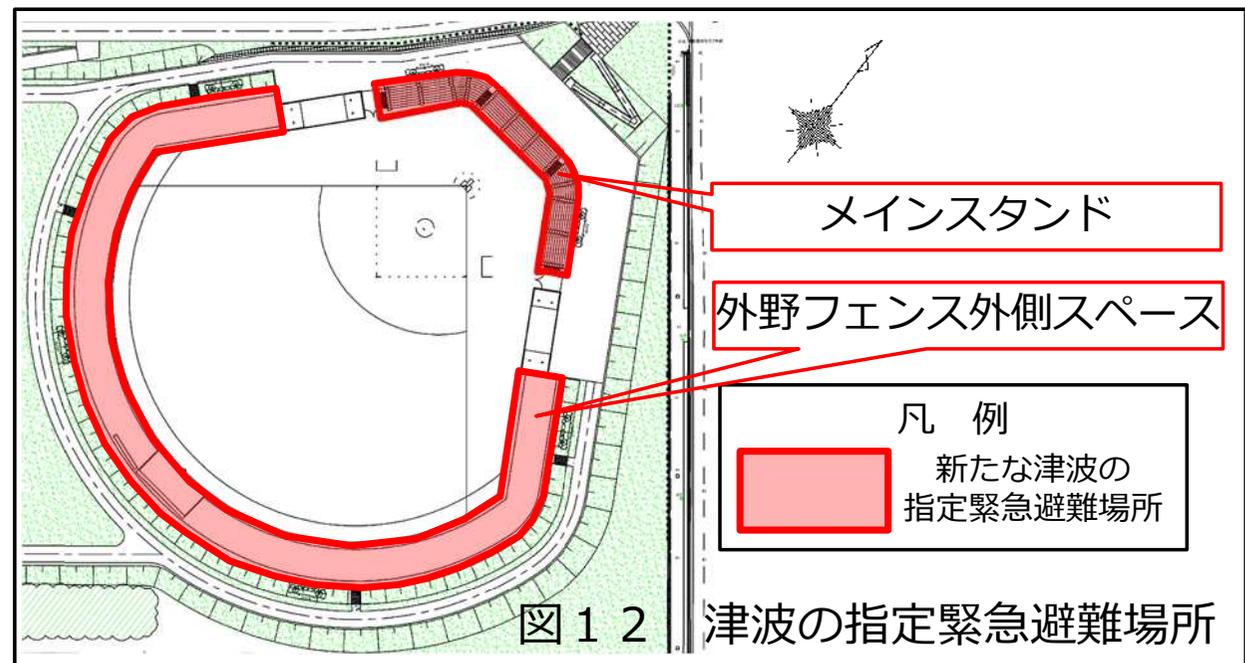
①メイン球場の津波の指定緊急避難場所

○メインスタンドと外野フェンス外側スペースを新たな津波の指定緊急避難場所

難場所 (※1)

(右図) に指定

【※1 居住者等が津波から命を守るために緊急的に避難する場所】



1.1. 計画の概要

②メイン球場の避難者受入れ想定

○メインスタンドと外野フェンス外側スペースを
新たな津波の指定緊急避難場所に指定

- ⇒
- ①津波の特定避難困難地域の縮小（公園全体が解消）
 - ②公園利用者や周辺地域の避難場所の選択肢が増える
 - ③受入れ可能人数（想定）：約5,500人 > 約4,080人

【③各人数の根拠一覧】

受入れ可能 人 数	○メインスタンド：約1,560人（約1,300席+前後通路：約260人）	約5,500人
	○外野フェンス外側スペース：約3,940人（約3,940㎡（1人当たり1㎡））	
利用 者 数 居 住 人 口	○野球場整備後のB・C地区の利用者数：約3,750人	約4,080人
	○半径2km圏内の居住人口：約330人	

1.1. 計画の概要

③周辺部における最近の指定状況

○豊橋市総合体育館とアクアリーナ豊橋の2階デッキを、津波の指定緊急避難場所（右図 ● ）に指定（令和6年10月）

⇒ ①津波の特定避難困難地域の縮小（公園の一部区域が解消）

②公園利用者や周辺地域の避難場所の選択肢が増える

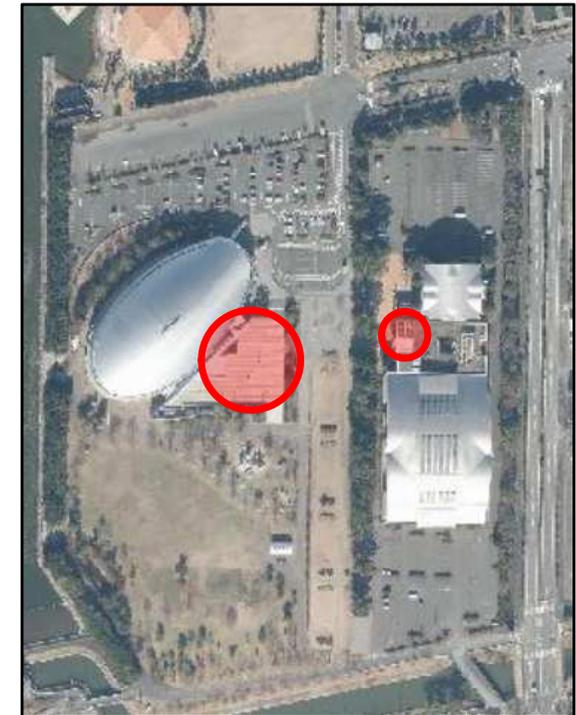


図1.3 津波の指定緊急避難場所

1.1. 計画の概要

④ 特定避難困難地域の縮小 ※下図は豊橋市津波避難行動指針に基づき公園緑地課が作成

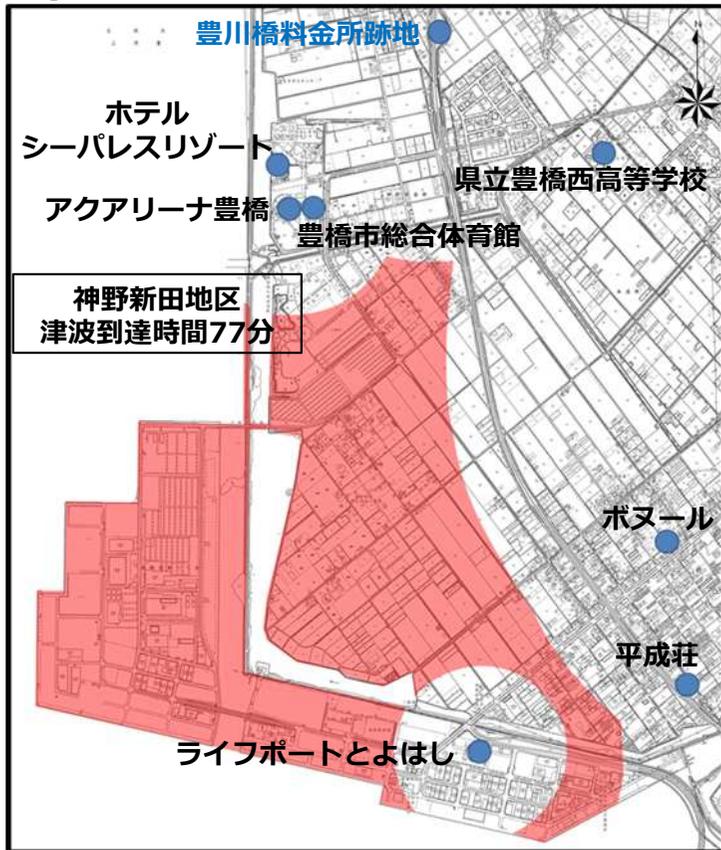
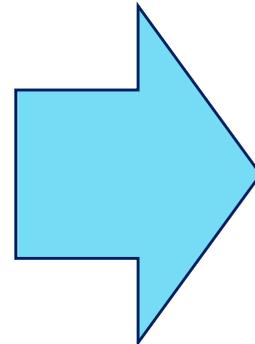


図14 特定避難困難地域（現在）



- 凡例
- 特定避難困難地域
 - 収容可能距離
(当該地域の受入人数により半径が変化)



図15 特定避難困難地域（野球場整備後）

12. 概算事業費

表2 概算事業費（基本設計時点）

概算事業費	内 容
約60億円 【事業費の内国費】 ○工事費 1/2 ○用地費 1/3	○設計：基本設計・基本設計修正・実施設計 ○工事：基盤整備・野球場(メイン球場・サブグラウンド)整備・付帯施設整備 ○用地：用地・補償

※：○国の社会資本整備総合交付金等を活用し負担軽減を図ります。

○概算事業費は、今後実施の設計、資材・労務費の状況により変動します。

【事業費の主な内訳】

- 約50億円
 - ・野球場3面（メイン球場、サブグラウンド2面）整備費
（駐車場・園路・管理棟などの整備費含む）
 - ・土地の取得費と補償費
- 約4億円
 - ・造成費用（盛土・法面保護含む）
- 約3億円
 - ・液状化対策（メイン球場のメインスタンドとその周辺・外野フェンス外側スペース）
- 約3億円
 - ・設計費用（基本設計・実施設計等）